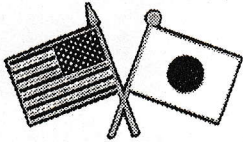


8 DEC 1998



第6号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒107-0052 港区赤坂8-4-17

赤坂郵便局私書箱 62 号

編集：JAAGA 事務局

印刷：(財) 防衛弘済会

在日米軍司令官を迎えての講演会開催

—— 日米安保の見通し ——



Guest Speaker: Lt. Gen. Hall

11月24日午後、グランドヒル市谷において、在日米軍司令官兼第5空軍司令官であるジョン B. ホール中将を講師として迎え、JAAGA主催の講演会が催された。

冒頭、ホール中将は講話の機会を与えられたことに謝辞を述べられると共に、まだ若い組織でありながら着実に成果を挙げているJAAGAの活動を高く評価され、今後の活動に期待を寄せている旨表明された。

次いで本題に入られたが、ホール中将は、若い時のベトナム戦争への参戦、そしてその後の各種・各級部隊指揮官並びに幕僚としての豊富な経験、更に通算7年近くに及ぶ日本での勤務によりわが国の国内事情にも通じ、またランド研究所での研究や国防総省での勤務を通じて培われたポリティコミリタリー分野での卓越した識能等々をもとに「日米安保の見通し」と題して、要旨下記に記した内容の講話をされた。質疑応答を含め約1時間半の講話であったがJAAGA

会員の他現役の幹部自衛官を含め約100名の聴衆は熱心に聞き入り関心の深さを窮わせた。今日我々が直面する不透明な環境の中にあって、日米安保を中心とした今後の日米関係及びわが国の安全保障を考える上で極めて示唆に富む内容であった。

講話終了後、鈴木会長がホール中将に対して謝辞を述べると共に記念品の贈呈が行われたが、この日準備した記念品は、

故松本壽正氏から、「JAAGAの活動のためにお使い下さい」との趣旨で寄贈を受けた唐三彩の色付けによる景德鎮の馬の置物であった。



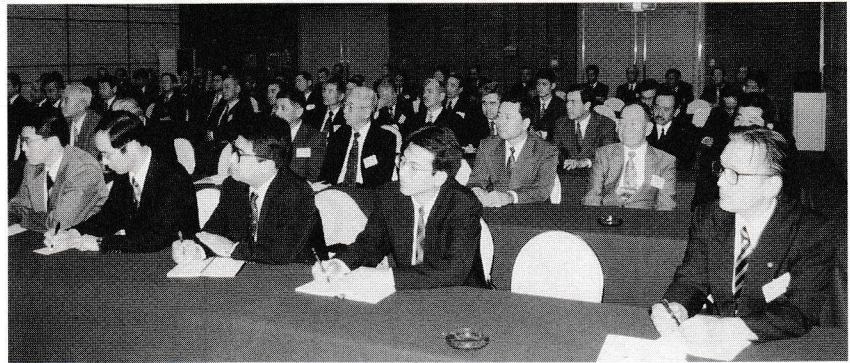
Gen. Suzuki (Ret.) presents a memento Lt. Gen. Hall

次いでその後場所を変えて、ホール中将を囲んで懇親会が開かれ、和やかな雰囲気の中、講話の余談或いは参加者相互の歓談等で盛り上がり、懇親会の意義を十二分に達成して盛会の内にお開きとなった。

今回のこの種企画は、我々会員にとっても又現役の幹部自衛官にとっても在日米軍司令官から、このようなテーマで直接話を聞き、親しく懇談するというのは、なかなか得られない機会であり、JAAGAが、こういう場を準備し提供することの意味は極めて大きいと思われた。



Lt. Gen. Hall addresses the audience



— 講演要旨 —

リンカーン大統領の言葉に、“国民の支援があれば、何事も可能である。さもなくば、全て不可能”とあります。正に真実ですし、それが故に我々はJAAGAのようなグループの力を借りて多くのコミュニティに話を広めるのは重要だと考えます。

メディアには色々な記事が書かれています。日米安保関係の進捗状況に関する地域諸国からの懸念について、ガイドライン関連法案の審議について。訓練時における騒音被害について。米軍機と日本の民間機とのニアミスについて。等々です。

私が本日試みたいのは、多くの課題の現状と、当座の見通しについて、もっとバランスに富んだ見解を述べる事であります。

全体的な日米関係は、冷戦直後の余波を受けて、ある一定の期間蔭が薄くなったと言われる方がおられるかと思われます。

仮にそのような考え方が正しいとしても、過去数年においては、日米同盟関係の維持及びその関係を21世紀に向けて強力、永続的に保つ準備に顕著な進展が見られるのは疑いのないところであります。

そのような努力が実を結んだのが、先ず1996年4月のクリントン大統領と橋本首相の間での歴史的

なサミットと、日米安保関係の重要性の再確認であります。

日米関係は、強力な三脚によって支えられています。即ち、経済、安全保障、そして政治です。ご賛同頂けると思いますが、日米は経済と通商面において引き続き努力をせねばなりません。安全保障面の支柱は、日米パートナー関係の堅固な基盤であり、この支柱が今後ともこの地域における安定を保証して参ります。

さて、このサミットの結果、防衛協力の指針が20年ぶりに更新されました。旧ガイドラインは、異なった世界と時代に焦点を置いていました。新ガイドラインの製作途上においては、顕著な詮策と公開の論議が成された結果、日米両国、及びそれぞれの軍隊の今後の防衛協力のための素晴らしい枠組と成りました。新ガイドラインは、広範囲に及ぶ機能分野で一層協力出来るような枠組み作りをしてくれました。

地理的か、状況的かとの論議に焦点が集中した時には、我々軍人も注意深く見守ってきました。結果的には、ガイドラインの性格は、この地域内で起きるいかなる場面においても最大の柔軟性を認めてい

ます。将来におけるいかなる協力も、日本の憲法と日米安保条約に基づいてなされる事に留意すべきです。更に、事前協議なくしては、日本政府、或は自衛隊に特定の行動を起こす義務を授けていないことです。

日米共同計画委員会は、大まかな機能別協力分野に、直接的な軍対軍の綿密なプランニングをする事により、形、内容両面で充実させる為に設けられ、フルに機能致しております。

後方支援の機会を拡大するためのACSAの改訂版も締結致しました。

全般的には、我々もこの一年の進捗に満足し、楽観的でありますし、この勢いを持続する所存です。勿論、ガイドラインが意図する所をフルに実施するには法的措置が必要です。数カ月の内に実現するものと願っています。

進展と申せば、我々はSACO（沖縄特別行動委員会）で取り決められた多くのイニシアティブを実施する上で大変顕著な進展を遂げて参りました。

報道は普天間基地問題のみ取りあげていますが、実際の所、SACOで取り決められた26のイニシアティブのうち、13項目が既に解決済であり、他の分野においても進展を見えています。

我々の訓練及び運用手順に関しても多くの仕事を

してきました。又、日米地位協定に定められた手続きも改善しました。普天間からの運用の移転がSACOの中心的事項である事は認識しております。日本政府もこの件では多くの関係者の同意を得るのに尽力されています。新しい知事が選出されたことでもあり、問題の早期解決を望みます。

締め括りとして皆さんに保証したいのは、主に日本と韓国に駐留しているアジア地域の米軍前方配備戦力は、広く地域内の平和と安定を確保して参り、侵略に対する抑止を応援し、地域の建設的な発展に寄与してきました。

米軍は地域内の潜在的不安定に対処する柔軟性を保証していますし、米軍の存在が米国は太平洋諸国の一員として、この地域で持続的平和と安定にコミットメントとしているとの、重要なメッセージを伝えていきます。

引き続いての米軍のプレゼンスは、この地域内のほぼ全ての国から安定要素であると見られています。私の考えでは、日米同盟はアジアの安定のためには中核的であり、アジア-太平洋地域全体の諸政府にとって、重要な安全保障面の要素であり続けましょう。

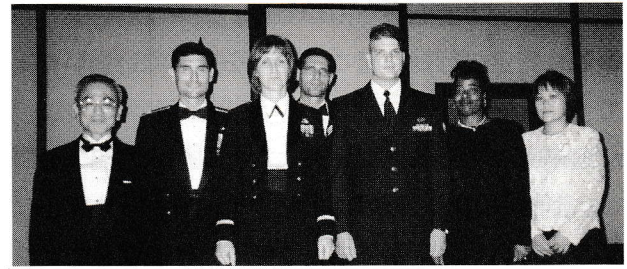
日米安全保障のパートナー関係は次の世紀に入っても、米国の太平洋地域に関する政策上の基礎であり続け、快晴、微風、追風を保証致します。



At the reception, from left to right
Gen. Muraki (Ret.), Ms Maggy, Lt. Gen. Hall,
Gen. Yamada (Ret.), Gen. Hasegawa (Ret.)

横田基地の4隊員を表彰

横田基地主催の第51回空軍創立記念式典(エアフォースボール)が、軍人軍属及び関係者数百名の出席のもと、9月12日夕刻、東京港区のニュー山王ホテルで開催され、本会から長谷川副会長夫妻が列席した。日米両国の国旗掲揚及び国家斉唱に続き、天皇陛下、米国大統領、航空幕僚長、米国空軍参謀総長等8名に対する乾杯を捧げた後ディナーに入り、デザート、米太平洋空軍バンド演奏と進行し、最後の締め括りにJAAGA及びAFA(米空軍協会)がスポンサーとなって優秀隊員の表彰式を実施した。壇上で長谷川副会長及び横田基地司令が写真の4名に表彰状(両協会共通)と楯(両協会各別)を贈った。



サムアーウッド大尉(通信隊) グレンEアームズ上等兵(輸送隊)
ヨウコタツミ事務官(補給隊) スゼットMジョンソン事務官(司令部)

なお、航空自衛隊からは竹河内航空総隊司令官等6組のご夫妻が参列された。

米空軍嘉手納基地優秀隊員表彰

嘉手納基地優秀隊員の表彰は、去る9月26日、嘉手納基地エア・フォース・ボール(51周年記念、スミス准将夫妻主催)の席上シニアエアマン ビゴルニア夫妻に対し、鈴木会長から賞状と楯が副賞を添えて手渡された。



Senior Air-man Bigornea
and Gen. Suzuki (Ret.)



Chief Master Sergeant Davis
and Gen. Matsumura (Ret.)

空自5隊員に善行顕彰を贈呈

三沢F-16事故で献身的な救助活動

1998年9月18日、米空軍三沢基地司令ライト准将主催の米空軍51周年ボール・パーティーに招かれ出席しました。正装の参加者約700名が集う厳粛なうちにも和気藹藹とした晩餐会でしたが、この席で、日米エアフォースの共同と友好に著しく貢献した功績を称え、米空軍デイビス曹長に対しJAAGAから感謝状と記念品を贈呈しました。この時には、満場の参加者から盛大な拍手を戴きました。

この日の午後には、第3航空団司令部庁舎講堂において、先の米空軍F-16の事故に際し、危険を顧みず炎上する事故機から搭乗員を救助した西濱空

曹長以下5名の航空自衛隊員の方々に対し、感謝と賞賛の意を込めて、JAAGAから記念品等を贈りました。同時にライト准将からは、太平洋空軍司令官からの感謝状が手渡されました。残念ながら、同じ日に、家族、関係者の願いも空しく救助された搭乗員の逝去の悲報が届いたのですが、5人の自衛隊員の行動は、三沢基地における、日米エアフォースの絆を強めるうえで多大の功績を残したと確信しました。

更に、同じ午後には、基地内ライズナー・サークルで举行された“Prisoner of War/Missing in Action Retreat”に参列することができました。戦における犠牲者の勇気を称えるこの式典は、軍隊の厳しさと戦の非情さに思いを巡らさずにはおれない感銘の深いものでした。(松村副会長)

「My Japanese Family」

故シンプソン大尉夫人から礼状

去る7月24日、三沢基地において米空軍第35戦闘航空団第14飛行隊所属のメルビン・B・シンプソン中尉操縦のF-16戦闘機が滑走路の端でかく挫炎上、一命は取りとめたものの重度の火傷を負い、本国送還後帰らぬ人となったシンプソン中尉（大尉に特別昇任）の夫人から、この程、鈴木JAAGA会長の元へ礼状が届いた。

夫人は、この事故で、自らの危険をも顧みず身を挺して夫の救出にあたった自衛官5名をはじめ、彼の生還を信じてお世話をした日本人達に対し、手紙の冒頭で「My Japanese Family」と呼びかけ、家族の一員として近況と心情を伝えている。

本欄で手紙の全文（仮訳）を紹介することにより、彼の生還を信じ、彼のために祈った多くの日本人達に夫人の気持ちを伝えたいと思う。

シンプソン大尉のご冥福を祈るとともに、夫人が一日も早く立ち直られ、幸せな人生を送られることを祈ってやまない。

なお、当日自己犠牲を顧みず献身的な救助を行った5名の隊員、西濱曹長（第3航空団基地業務群本部）、米田1曹（同）、鈴宮1曹（三沢管制隊）、小山3曹（警戒航空隊）、金城1士（同）に対し、航空幕僚長から3級賞詞が授与されたほか、JAAGAからも善行顕彰を贈呈した。

親愛なる日本の皆様方へ

主人の事故そしてその後の本国での加療に際しまして、この2カ月間、皆様から絶大なるご支援と愛情を頂戴し、また容態の回復を祈っていただきました。皆様に心から感謝の言葉を述べたいと思います。

先日、主人は還らぬ人となってしまいました。彼の死は誇りあるものとして皆様の心に残ることと私は信じます。心臓の鼓動が止まったとき、主治医をはじめそこにいる誰もが彼を逝かせたくなくて、必死に心臓マッサージを試みました。果たして主人には彼らの姿が見えたのでしょうか。定かではありません。私たちはずっとそこで彼を見守っていました。その場を離れることなどできませんでした。そして主人は逝き、私は彼のとなりに横たわりました。大きな主護天使が主人を迎えに来られ、よりよいところへと連れて行って下さったことでしょう。痛みのない場所へ。そして私の心には、彼がここにいてくれたらという悲しみと同時に、彼が痛みから放たれたという安心感もまた湧きました。主人には今、足があるのです。私たちの一生は神様の意志によって与えられ、主人はその与えられたものを全うしたのです。彼は老いることなく永遠に若くいられるのです！

今、私は希望を失い、これからどう生きていけばいいのか分かりません。主人なしの人生で、生きる目的も見出せず、何も手につかない状態です。当分の間は両親の家で暮らそうと思いますが、もはやそこは私のいるべき場所ではありません。本当であれば、家や車を購入したり、これからの生活設計を立てていかなければならないのですが、しばらくの間はのんびりと過ごそうと思います。わけもなく実家にいるのは両親に申し訳がありません。落ち着きましたら、私の愛する人たちを訪ねたいと思っています。その時は皆様のいる日本からその旅を始めようと思っています。いつになるかはまだ分かりませんが、日本では数週間、皆様と一緒に過ごそうと思います。その時はご一緒していただけますか？

皆様は、闘志ある私たち家族の一部であり、そのことを誇りに感じていただければと思います。皆様はまさに私たちを家族の一員として激励して下さり、それは世界中の人たちに示されました。主人も皆様の愛情を十分感じられたはずで、そしてまた、皆様の私自身に対する愛情も、彼はきっと心から感謝しているに違いありません。

明日、私はサン・アントニオを離れ実家に帰ります。

実家の住所／電話番号

The Newton's 7134 S. Sedalia St. Foxfield. CO 80016

(303) 690 - 5567

Love. Katie

太平洋空軍司令官交代式

去る7月31日、太平洋空軍司令官がマイヤーズ大将からギャンプル大将へ交代することになり、ヒッカム空軍基地（ハワイ）において、ライアン空軍参謀総長の執行により交代式が実施され、当協会からは鈴木会長が出席した。

新司令官のプロフィールは次のとおりである。

◦ 生年月日：1945年11月12日

◦ 主要経歴：

1988. 4～1989. 6 第18 戦闘支援航空団司令
(嘉手納基地)

1989. 6～1990. 6 第18 戦術戦闘航空団司令
(クンサン基地・韓国)

1996. 8～1997. 11 第11 空軍司令官
(エルメンドルフAFB:アラスカ)

1997. 11～1998. 7 空軍参謀本部・航空宇宙作戦担当参謀長代理

1998. 7～ 現 職

◦ 職 種：パイロット（飛行時間3100時間以上）

◦ 家 族：夫人、一男



Change of Command Ceremony

横田基地司令離日に伴う送別会

8月12日、18時からアルカディア市谷（私学会館）において、第374輸送航空団司令兼横田基地司令ブライディング大佐の送別会がJAAGA主催で行われた。

ブライディング大佐は、1996年9月、374輸送航空団副司令として横田基地に着任し、1997年2月、同団司令兼横田基地司令となり、約2年間にわたり活躍中であったが、8月14日に太平洋軍司令部参謀副長

（新設）として転出されることになったものである。送別会には、30名が参集した。米軍側からは、

第5空軍副司令官スティープンソン准将以下4名、空自側からは、入間、府中、立川の各基地司令そしてJAAGAからは鈴木会長以下22名が参加し、なごやかな雰囲気の中で思い出話に花が咲き時間の経つのも忘れる程であった。

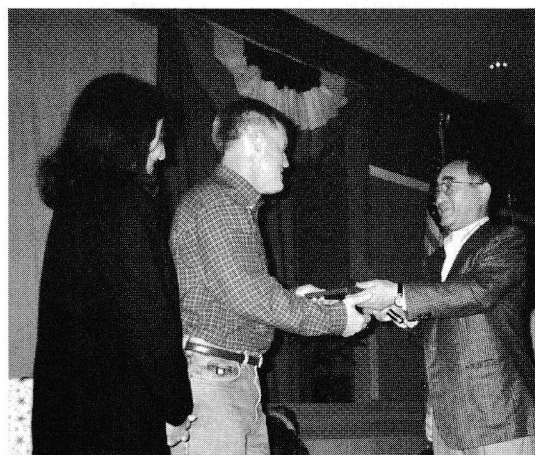


Bidding farewell to Col. Briding

三沢基地司令交代に伴う行事

平成10年11月7日(土)、三沢基地NCOクラブにおいて開催されたライト准将歓送夕食会に出席しました。会は、日米両国歌の斉唱で始まり、ライト准将のスピーチで終わりましたが、和やかでフランクな雰囲気に包まれた楽しいものでした。会の終盤でライト准将夫妻への記念品の贈呈が行われましたが、最初の贈呈は、JAAGAからの盾で、ひき続いて北空司令官、北警団司令、3空団司令等から贈られました。ライト准将は、1994年6月、在日米軍作戦部長として横田基地に勤務してから4年4ヶ月を日本で過ごし、この度、統合参謀本部運用情報部次長に栄転されました。同准将は、JAAGAの設立趣旨を深く理解していた米軍人の一人であり、今後のご活躍とご発展を心から願う次第です。当日は、新司令スティーブン・ウッド大佐も出席しており、会うことができました。ウッド大佐は、国防総省米議会下院連絡調査官からの転任とのことですが、小柄ながら精やかなパイロットという印象を受けました。

今回の夕食会は、約700人の参加者で開催されましたが、ノースモーキングはともかく水のコップでの乾杯にはいささか戸惑いました。食卓には、アルコール類は一切サービスされず、希望者はバーカウンターを利用するというスタイルでした。大統領の訪日やテロ問題に関連して、基地の警戒態勢を高め



Brig. Gen. and Mrs. Wright
and Gen. Matsumura (Ret.)

ているせいとも推測しましたが、それ程の理由ではないというのが一応の答ではありました。この種の行事での牧師(軍人)のお祈りやアメリカ風の合理性に徹底したやり方には、やはり文化というのか精神的風土の違いを感じますが、笑顔で握手だけでは済まされない友好親善(GOODWILL)の本質に想いをいたしたことでした。

また、11月13日には、三沢基地司令(第35戦闘航空団司令)ライト准将からウッド大佐への指揮官交代式が第5空軍司令官ホール中將の執行により実施され、JAAGAからは鈴木会長が出席しました。

(松村副会長)



Change of Command Ceremony at Misawa AFB
left : Brig. Gen. Wright right : Col. Wood



OSW派遣留守家族に対する慰労

前号で、第18航空団並びに第35航空団が、それぞれ一個飛行隊規模の部隊を、OSW（注）任務遂行のために湾岸地域に派遣している旨紹介するとともに、鈴木会長名で両団司令宛送った派遣留守家族に対する激励のメッセージを掲載しましたが、夫々の派遣部隊は立派に任務を達成し、9月中旬までに逐次原隊復帰し、待ちわびる留守家族のもとに無事帰ってきました。

このうち第18航空団では、7月上旬に任務を終えて原隊復帰した第44飛行隊の帰還を慰労するピクニック（家族も参加）が、8月1日（土）午後、嘉手納基地において行われた。このピクニックに那覇在住の石津靖元空将補が、JAAGAを代表して参加し、要旨次のような慰労のスピーチをするとともにビールを贈呈し、団司令の Baker 准将以下出席者一同から大いに感謝された。

「私は航空自衛隊OBの医師で元空将補の石津です。日米エア・フォース友好協会を代表して、OSWに参加された皆さんに感謝と慰労の意を表しに参りました。皆さんは、イラクの軍事的冒険の可能性を抑制し、中東の秩序を維持するため、遠く家族のもとを離れ立派に任務を遂行されました。無事の帰還をご家族と共に喜びたいと思います。

我が国にとっても中東の安全は極めて重要であり、皆さんの献身的な努力に対して多くの日本国民は、心から感謝しております。日米エア・フォース友好協会が、多くの日本人の心を代弁して皆さんに感謝の意を表わすため、日本のビールをお土産に持って参りました。心ゆくまで味わって下さい。どうもありがとうございます。」

（注）OSW : Operation Southern Watch
（中東における監視活動）

NCO Exchange Program に支援金

JAAGAは、本年度から日本に滞在している米空軍連絡幹部等に対する支援事業を計画しており、その一環として、NCO Exchange Program（注）に対する支援をスタートした。米空軍連絡幹部に対する支援についても、米軍の規則、本人及び所属部隊の希望等を確認しつつ実行方策を検討中である。

さる9月21日、0945から約15分間、横田基地第5空軍司令部の副司令官室において、JAAGA側から石川理事長、笠井理事、5空軍側から副司令官ステーブソン准将、同副官ハセベ氏、前任下士官カーリスク上級曹長、空自側から連絡官室落合曹長が出席し、石川理事長からステーブソン准将に対し支援金の贈呈をおこなった。

この席上において、石川理事長から「JAAGAは米空軍連絡幹部等に対し、可能な範囲で何等かの支援をしたいと考えており、米空軍連絡幹部に対する支援については、実行方策を検討中である。NCO Exchange Program については、米空軍からの要

望もあって、検討の結果本年度から実施することとなった。今回を第一回目として、毎年継続して支援していきたいと考えている。在日米空軍と航空自衛隊との絆が更に強固となるために活用していただければ嬉しい。」と述べた。これに対し、ステーブソン准将副司令官は「米空軍連絡幹部等に対するJAAGAの支援について大変感謝している。本日の支援金についても有効に使わせて頂きたいと思う。プログラムに参加するNCOに対しては勿論、JAAGAの支援については、基地新聞等で紹介したいと思う。JAAGAの活動は我々米空軍にとって心強いものである。私は8月に着任する前から、その良い噂を聞いていた。」と謝辞を述べた。

（注）NCO Exchange Program

部隊レベルの日米相互理解の促進を通じて日米防衛協力体制の基盤充実に寄与することを目的として、在日米空軍の下士官および航空自衛隊の空曹が部隊のOJT形式による部隊研修を相互に実施するもので、平成8年度から毎年、空自は米軍三沢基地で、米空軍は空自千歳基地で約1週間研修を実施している。

第2回SPORTEXゴルフ大会

米空軍チームが優勝

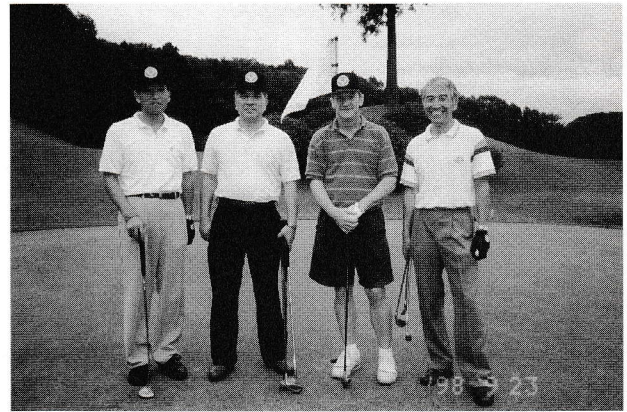
去る9月23日の秋分の日、JAAGA主催による第2回目のゴルフ大会が、昨年の10月10日に続いて、米軍多摩ゴルフ場において118名が参加して開催された。

大会は、参加者の属する空自現役チーム(33名)、在日米空軍チーム(23名)JAAGA会員チーム(62名)によるチームの部と、各個人の部によって覇が争われたが、チームの部では在日米空軍チームが昨年優勝の空自現役チームから優勝杯を奪った。

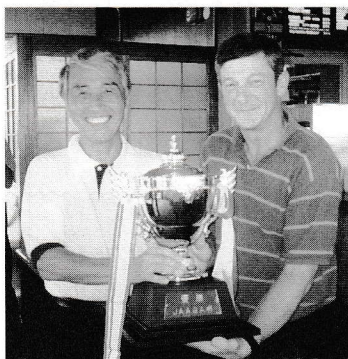
今大会は、前日の夕刻まで7号、8号の台風が相次いで本土を縦断し、これによって悪天候が続いて

いたことと、そこに米軍チームの中心勢力がある在横田の第374 AIR LIFT WINGが、PACAFのINSPECTIONを急に受け、これが続く限り参加できないといった事態になり、開催が一時危ぶまれたが、前日の夕刻に「終了」との通報が入り、何とか予定通りの決行となった。

当日は、台風一過とはいかず、今にも泣き出しそうな空模様であったが、参加者のやる気は強く、0630には全員集合完了、15分早めた0700、ショットガン方式により、スタートし1200まで各ホールで熱戦が繰り広げられた。ヤル気とスコアーは直接繋がらない参加者も多々あったようであるが、その結果は次のとおりであった。



On the green
Maj. Gen. Kasai (Ret.), Gen. Hiraoka,
Col. Scott, Gen. Suzuki (Ret.),



Gen. Suzuki (Ret.)
and Col. Blanchette

優勝	スコット・R大佐	「チームワーク賞」	スコット・R大佐
準優勝	ボルチェフ・M大佐		遠竹郁夫
3位	内田正勝		長谷川孝一
ブービー賞	中島紀義		千葉徹也
「ベストグロス賞」	ボルチェフ・M大佐	「シルバー賞」	松尾 繁 (75歳)
「ドラコン賞」	神谷英則、増田愛三	「ヤングゲスト賞」	ホンチュル・D大尉
「ニアピン賞」	臼井治夫、小沢 武、 野中之雄、浅野明照	「バースデー賞」	山田 稔
		「会長スペシャル賞」	スコット・S大佐

昼食後、表彰式が行われたが、式に当たって各チーム代表の平岡空幕長、ブランシェット第5空軍作戦部長、鈴木JAAGA会長から夫々エールの交換のスピーチがあったが、鈴木会長から、GOODWILLの実を上げるには、何度も会って、何回も語ることである。ゴルフは世界共通のLANGUAGE、こういう機会を捉えて、更にGOODWILLを育てていこうとの熱い呼びかけがあった。(新谷理事)

前第5空軍司令官エバーハート大将夫妻来日

前第5空軍司令官で現在空軍参謀副長のエバーハート大将が夫人を伴って来日され、去る9月25日(金)夜、横田基地の第5空軍司令官公邸において、司令官ホール中將の主催により、関係者多数が招かれて、同大将御夫妻を囲んでのレセプションが行われた。当協会からは鈴木会長、二宮、丸山、大橋、

城戸、笠井、各会員が招待され、それぞれ夫人と共に参加し、折から来日中であった元第5空軍司令官デイヴィス退役大将や杉山、村木元空幕長夫妻等内外の多数の友人、知人達と共に歓談が続いて旧交を暖め、楽しく有意義な時を過ごした。

日米ネービー友好協会懇親会へ参加

11月19日夕、横須賀市で開催された平成10年度懇親会および感謝状贈呈行事に招待され、日米エアフォース友好協会を代表し参加しました。懇親会当日の午後には米空母キティホークでの会員研修が実施されたとのことでした。懇親会には約420名が参加していましたが、米海軍からは約230名が出席したようです。懇親会開会時の鏡割りに他の来賓(第7艦隊司令官、自衛艦隊司令官等)ともども参加させていただきました。懇親会に先立ち、感謝状

贈呈行事が行われ、米海軍軍人5名(ヘニイ中佐、下士官4名)、海自海曹4名にそれぞれ感謝状と盾が贈呈されました。

共同訓練が実施された直後であったこともあり、日米双方が和気藹々と会話を楽しんでいる様子を見ると、ネービー友好協会の日頃の地道な努力が着実に成果をあげていると感じられました。

(松村副会長)

松本氏、小沢氏に感謝状贈呈

10月9日、日頃からJ A A G Aの活動に御理解と御支援をいただいている狭山市在住の松本壽正氏、小沢孝志氏に会長から感謝状が贈呈された。感謝状は、当日、鈴木会長と利渉理事が松本氏の自宅を訪

問して手渡した。

なお、松本氏は去る11月14日心筋梗塞で急逝(82歳)された。御冥福を心からお祈り致します。



日米幹部の相互派遣 (第2回)

今回は平成9年3月に着任以来、第1術科学校において教官として勤務しているスチュワート・ラム大尉の所感文を掲載します。

「航空自衛隊第1術科学校における生活について」

1 勤務について

私が浜松での勤務で常に心掛けていることは、自衛隊と在日米軍との協力関係をより強くし、さらに向上するよう努力することです。そのために、同僚の自衛官に、自分を通じて米空軍の幹部の事や生活を出来るだけ知ってもらうように努めています。毎日相互の理解に励めば、我々は日米関係に必要な大切な理解や協力ができると思います。又、それが任務でもあると考えています。それ以上に、学生が良い体験であったといえるような一生懸命で素晴らしいMOの教官を目指します。それが私の目的であり、そのためにいつも前向きに航空自衛隊の中で取り組んでいます。

第1術科学校に来てからは、何も問題はなく、困った事ありません。それは私の世話をしてくれている松岡2尉と第1教育部1科の皆さんが、とても親切に支援してくれているからです。私は日本語がもっと上達するために、米空軍の整備方式や整備活動の教育をやりながら、日本語の勉強もしています。

2 生活について

現在、独身で家族はいません。私は一人で暮らしております。まだまだ、結婚をする意志はありません。でも、浜松に友人がいっぱいいるので寂しくはありません。浜松は本当に住み易いところで、アウトドア活動なら最高です。砂浜は幅広くて海に入るのは私の趣味の一つです。特に夏にはサーフィンをやっています。私の住居は2年前に出来たので、最初に住んだのは私です。買い物は簡単に周辺でできるので便利で生活しやすいところです。通勤は自動

車で15分ぐらいで、たまに自転車で通勤しています。距離は約3キロです。大家さんは隣で、万一困った事があれば、すぐ手伝ってくれます。とても嬉しくて、満足しています。日本の生活には大分慣れました。特に日本の日用品はアメリカと比べると高いけれど、西洋品より使いやすくて便利です。特に、一人分だったら、日本のスーパーは最適です。毎週末に近くのスーパーで一週間分の買物をしています。

3 趣味又は娯楽について

前述した通り、アウトドア活動が好きです。和食も口に合うから、よく外食もします。また日本の文化を学ぶために合気道をやり、礼儀作法も習っています。暇だったら、夏は海に行って、冬は浜松や静岡県内を観光しています。そのほか、日本語の能力を上達させるために、日本のテレビドラマを見るのが大好きです。

4 今後の予定又は抱負について

取りあえず、日本に来てから時間がたつのが早くて、将来のことはまだ考えていません。出来れば、浜松基地勤務の体験をいかして、ハワイにある太平洋空軍の幕僚勤務をやりたいと思っています。そうすれば、さらに日米相互関係の向上に貢献出来ると思います。

5 在任間で特に印象に残った事は何ですか？

世界中のどこの国でも、軍人はものすごく自信と誇りを持っています。航空自衛隊員もその通りです。空自の良い面は、皆が同期や同僚の事をよく知って

います。例えば、防衛大学の同期、BRO（Basic Radio Officer=初級機上通信電子幹部課程）の同期を覚えており、USAF よりもっと親しい感じがします。残念ながら、自衛隊員が USAF のことに興味があるほど、USAF は自衛隊の事をあまり知りません。自衛隊が我々に関心を持ってくれるので、大変感謝しています。

6 JAAGAが皆さんに支援、協力をしてあげられるとしたら、どのような事があると思われませんか？

JAAGAは航空幕僚長や目上の人に我々の事を

よく伝え、また、支援して頂いてくれるので大切に思っています。特に、色々な要求があれば、いくら小さくて、簡単なことでも、手伝ってくれますから、感謝しております。JAAGAに対して特に要求する事はありませんが、出来れば、4術校の交換幹部 Capt Sasaki が計画している米軍（横田基地）と交換幹部がいる基地との間に通信ネットワークを作り、Eメール通信が出来るように協力して欲しいと思います。

USAF CAPT
Stuart A.Lum



Capt. Lum and his colleagues at the 1st Tech. School

教育第1科長コメント

ラム大尉は、第1術科学校第1教育部着任以来、初級及び上級幹部課程教育をはじめ、学校の行事や課外活動等に熱意を持って積極的に取り組んでおり、日米相互理解の目的達成に尽力しております。また英会話クラブや隊員への英会話教育を時間に余裕のある限り快く引き受けてくれるとともに自らも日本語のマスターに懸命です。

ラム大尉の日本語は「読む」「書く」「話す」の三拍子揃っており、授業はもちろん日本語で実施しています。そして、本原稿は、もちろんラム大尉の原文そのままであることを付言しておきます。

在日米軍部隊の紹介

(その3) 第18航空団 (嘉手納基地)

1 沿革

第18航空団は、最も古い歴史を持つ航空団の一つであり米国外にある航空団としては、保有機数最大規模、要員数は第4番目である。

第18航空団の歴史は、1927年1月21日のハワイ(ホイラフィールド)における臨時追撃群の編成から始まる。まもなく第18追撃群と改称されるが1941年の日本によるハワイ諸島奇襲では多大な被害を受ける。その後、同群は、上級部隊及び隷下部隊を含めた複雑な改称、解散、再編等の過程を経て今日に至っている。同群は移駐先を、南太平洋、比島クラーク基地、韓国と変え、1954年11月1日、沖縄の嘉手納基地に移駐してきた。この間、同群は各地において幾多の輝かしい戦果を挙げてきた。1991年10月1日、米空軍の大規模な部隊再編成の一部としてあたらしい第18航空団が誕生し、空中警戒管制機、空中給油機等を加えた部隊となった。また、第18航空団は、米国本土に駐留したことのない唯一の航空団でもある。嘉手納基地には、3,688メートルの滑走路が2本あるが月平均の離発着回数は1,000回であり、太平洋地域では最も使用頻度の高い基地である。第18航空団司令 James B. Smith 准将は嘉手納基地司令を兼ねている。

2 任務

第18航空団の任務は、「前方展開する嘉手納基地の戦闘即応能力を整え、機動能力ある空軍部隊を総合的に運用し、米国及び日本を含む同盟国の利益を守ること」である。

沖縄は東京、ソウル、マニラ、香港から1,500キロ、またグアムから2,000キロに位置し、戦略的に太平洋の要石と言われている。

戦闘準備態勢下では航空機80機を保有し、有事には米国本土からの中継点として最大170機の戦闘機の収容が可能である。

全飛行任務のうち三分の一は駐留基地以外の場所における演習や支援任務である。

3 編成

第18航空団は、次の5個群から構成されており、各群は複数の中隊から成っている。

(1) 軍用群

7個中隊 2,100人

F15C/D型戦闘機、KC-135R空中給油機、E-3型空中警戒管制機、HH-60型救難機等による飛行活動

(2) 兵站群

6個中隊 2,400人

戦闘能力を機材、資材運用で支援

(3) 医療群

4個中隊 450人

陸、海、空の軍人、軍属の治療、健康管理支援

(4) 支援群

4個中隊 3,000人

嘉手納基地の居住者及び外来者のための生活支援

(5) 施設群

2個中隊 1,550人

基地施設の維持改善及び在沖縄米軍家族住宅の管理・維持

なお、要員の統計的現況は次のとおり。

空軍現役軍人 8,300人 日本人従業員 3,200人 国防省民間人従業員 1,500人 下士官対将校の割合 90% : 10% 現役軍人の女性の割合 15%

4 地域交流活動と環境保護活動

第18航空団においては、地元住民との相互理解及び友好信頼関係を深め、かつ強固なものにするた

め、積極的かつ活発な地域住民との交流活動が行われるとともに基地内外の環境保護活動も行われている。

(1) 地域交流活動

第18航空団主催による基地開放のアメリカフェストには約数十万人の来訪者があり県内最大規模のイベントの一つとなっている。政府、地方公共団体の基地視察等は月平均8～10団体、自衛隊の交流視察等は月平均2回、地方民間団体等は月平均5団体くらいである。地域への行事参加としては、日本陸上連盟公認の沖縄マラソンには、基地内の一部がコースにかかるため、ゲートを開放。マラソンを支援するため交通整理要員、その他のボランティアを動員している。また那覇ハーリー、エイサー祭り、沖縄国際カーニバル等の行事に軍人やその家族等が積極的に参加している。基地周辺への航空機騒音軽減対策として、KC-135のエンジン換装、F-15アフター・バーナー使用制限、地

元住宅地上空の飛行回避、午後10時以降翌朝6時までの間の訓練飛行の厳しい制限、県立高校入試日などにおける飛行活動の最小限化等を実施している。

(2) 環境保護活動

嘉手納基地においては次の四つを重要項目とする環境事業が計画的、継続的に実施されている。

- ア 公害防止：米国と日本の環境法を統合した日本環境統制基準（JEGS）による有害物質の使用、有害廃棄物の放出の最小限化等
- イ 基地内史跡、文化資産の保存：沖縄の歴史、文化、沖縄戦にかかわる史跡の保存等
- ウ 環境安全：人々が健康で安全な生活が出来るように、特に大気と水質に関する厳しい検査等
- エ 自然環境の保護：基地の1,200エーカーをこす管理地内の希少動植物の調査、確認、保護等

個人賛助会員（一般）の紹介

このたび次の5名の方が個人賛助会員（一般）として入会されました。

氏名	生年月日	住所	職業
足立 統一郎	S16. 3. 15	684-0033 鳥取県境港市上追町 1855-10	会社役員
安 齊 剛	S14. 11. 27	226-0023 横浜市緑区小山町 431	会社役員
大 隅 ミヤ	S 6. 11. 23	243-0422 神奈川県海老名市中新田 325-2	なし
佐 藤 紀 子	S14. 5. 1	229-0037 神奈川県相模原市千代田 4-4-16	なし
稲 垣 美 治 よし はる	S 5. 9. 25	197-0003 東京都福生市熊川 1123-3	会社役員

在日米空軍基地のトピックス

今回は、在日米空軍の横田、三沢、嘉手納の指揮官の交代があったのでその経歴を紹介します。

横 田

8月、マークA、ボルシェフ大佐がブライディング大佐の後任として第374空輸団司令に着任した。大佐は1975年に米空軍士官学校を卒業後、パイロットとして主にC-130とC-141に乗り約4,500時間の飛行経験を有している。

前任地はドイツのラムスタイン空軍基地で、在欧米空軍司令部の作戦副部長を務めていた。趣味はゴルフでハンデキャップ2の腕前である。

三 沢

11月、ステファンG、ウッド大佐がライト准将の後任として第35戦闘航空団司令に着任した。大佐は1974年にワシントン大学の予備将校訓練課程卒業後、空軍に入隊してパイロットとして活躍し、F-4D、F-16等、約3,200時間の飛行経験を有している。

大佐は湾岸戦争において49回の戦闘出撃経験を持っている。

前任地はワシントンD. C. で、米議会下院担当空軍連絡調整官を務めていた。

嘉 手 納

10月、ジェームスB、スミス准将がBaker准将の後任として第18航空団司令に着任した。准将は1974年に米空軍士官学校を卒業後パイロットとして活躍し、F-15等、約2500時間の飛行経験を有している。

湾岸戦争時にはサウジアラビアのダーラン空軍基地で、臨時航空団の作戦副部長を経験している。

前任地はコロラド州のパターソン空軍基地で、米宇宙空軍司令部作戦部次長を務めていた。



安全保障に関する日米関係

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解のため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望があれば御一報下さい。

J A A G A事務局

連絡先

坂本祐信（横浜ゴム㈱勤務）

「電話」03-5400-4722

「FAX」03-3431-4820

JAAGA 会員の皆様へ

冷戦終結後の新たな国際情勢の中で「新ガイドライン」が策定され、まさに日米安保新時代を迎えて、JAAGAの活動は一層重要性を増しております。このときに当たり、航空自衛隊OBの存在意義を示すためにも、一人一人のささやかな奉仕の意志を集合し、航空自衛隊の将来の精強化と我が国防衛の基盤たる日米両エアフォースの相互理解に寄与して、現役諸君のご苦勞をしっかりと後ろ支えして行かねばなりません。また、社会一般に対して在日米空軍の重要性を啓蒙するためには、航空自衛隊OB以外の協力者を得ることも大切です。

発足2年目を迎えたJAAGAは、現在、その活動を一層活発化するために個人会員の会勢拡大を図っており、会員の皆様方の勧誘、推薦、情報提供に関する御協力、御支援を是非とも宜しく御願ひ致します。

なお、個人会員については次の通りで、推薦若しくは情報提供を頂いた方には会員担当から連絡させていただきます。

正 会 員：航空自衛隊OBで入会された方（年会費5千円）

個人賛助会員：航空自衛隊OB以外の方で、正会員3名の推薦により、理事会の審査を経て入会された方（年会費1万円、当面は東京地区を主対象に募集し、遂次全国にその輪を拡げていくことにしています。）

【連絡先】

「郵便」 〒107-0052 東京都港区赤坂8-4-17 赤坂郵便局私書箱第62号

日米エアフォース友好協会 会員担当行

「FAX」 03-3780-2945 石母田 治（日本航空電子工業㈱）

「電話」 03-3780-2961 同 上

03-5323-5135 村木 裕 世（横 河 電 機 ㈱）

03-3456-7664 武 智 哲 作（日 本 電 気 ㈱）

03-3245-6611 荒 蒔 義 彦（新 明 和 工 業 ㈱）

（ ）内は勤務先